

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	商店街（代表者）	競争相手の様子	・11月は防寒物の売れる月であるため、防寒物に関しては前年並みの販売量となっている。一方、トレンド商品を扱っている店舗では前年を上回る動きがみられる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・降雪により、それまで遅れていた防寒衣料や靴が一気に動き出し、衣料品全体が好調である。特に実用性の強い商品は好調を維持している。食料品においても鍋物関連の動きが顕著であり、食品全体の商品単価が低下しているものの、販売量及び買上点数が増加傾向にある。お歳暮ギフトも生鮮品が2けたの増加となるなど、カタログ品が中心だった前年とは内容に変化がみられるが好調である。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・消費税増税のニュースなど、先行きへの不安要素があるが、気温の低下にともない、冬物衣料に対する消費者の購買意欲が一段と上昇している。ただし、消費単価は低下傾向にある。
		自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・前月は降雪の遅れから、スタッドレスタイヤなどの冬季商材の販売が伸びなかったが、今月は前月を大幅に上回る販売量となっており、前月の遅れを取り戻している。しかし、カーナビだけは、タイの洪水の影響から新車の納期遅れなどが出ていることもあり、販売量が低迷している。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・客と話をしても、半年前のように不景気だから購入を自粛するといった話は少なくなっている。逆に良い物があれば積極的に購入したいという様子が出てきている。
		美容室（経営者）	単価の動き	・年末に向けて、わずかではあるが来客数の増加がみられる。また、売れ筋商品が好調を維持しており、若干ではあるが客単価が上昇している。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・依然として客の慎重な買い方に変わりはないが、最近はやげんのような価格訴求ではなく、何か新しい動機付けを期待するようになってきている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応は以前と変わらず、良くも悪くもない状況にある。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・降雪の遅れにより、主力アイテムであるコートへの関心が薄く、コートの動きが非常に悪かった。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・11月上旬、中旬と前年を上回る気温の高さがあり、冬物の防寒コートや手袋、マフラーの売上が前年比90%と非常に厳しい状況にあった。下旬になり、ようやく雪が降り、寒さも戻った影響で少し上向いてきている。お歳暮ギフトも前年比95%台とまだ動きが鈍い。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・10月は売上が前年を上回ったものの、買上客数が減少しており、客単価の上昇で売上を確保した状況であった。11月も買上客数が前年比96.6%、客単価が前年比100.5%となっており、売上は前年比97%前後で推移している。このため、回復の兆しは感じられない。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・11月中旬に遅い初雪が降り、コートや手袋、帽子などの防寒衣料を買い求める客で、来客数は伸びているものの、買上率は来客数に比例した伸びとなっていない。先行きの不透明感から、まだまだ財布のひもが固い印象を受ける。
	百貨店（役員）	お客様の様子	・雪が降ったことでホームセンターの売上が急伸びしたが長続きしない。一方で、今月はストーブの売上が大変良かった。ただ、前年はテレビが大変売れたため、前年実績を上回るのは難しい。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・10月同様、気温が下がりきらない状況のなか、衣料品が苦戦していたが、中旬に降雪があり、前年並みの気温に下がったことで衣料品の動きが良くなってきた。食料品は相変わらず堅調な動きであり、家庭用品は前年のエコポイント特需の反動が出ていることがマイナス要因となっている。プラス要因とマイナス要因があるが、全体としては回復傾向に変わってきている。	

	スーパー（役員）	来客数の動き	・既存店の客単価は前年比101%となっており、この数か月大きな変化はみられないが、来客数が前年を2.0～2.5%下回って推移している。
	スーパー（役員）	お客様の様子	・お歳暮ギフトやおせち料理の販売は前年の85%程度で推移している。生活必需品以外の商品の低迷が続いている。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・たばこの売上は前年が値上げの影響で売上が落ち込んだこともあり、増加傾向が継続しているが、来客数が今一つ伸びてこない。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・前年はたばこの販売量が減っていたため、売上は前年を上回っているが、それ以外の商品は減少傾向にある。秋以降はアルコールや飲料水の動きが低調である。
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・テレビの販売が急激に落ち込み、売上、販売量ともに前年を大幅に下回っている。また、タイの洪水の影響で一部の商品が不足し、入荷待ちの状態が出ていることが、状況の悪さに拍車をかけている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数、売上ともに前年の9割程度となっている。販売車種も小型車が主力で利益率が低く、整備費でカバーしている状態である。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・自動車燃料油の販売量は、引き続き前年を大きく割り込んでいる。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・東日本大震災の影響がまだ続いている。ただ、当店が入店している複合商業施設に新しいスーパーが入店したことから、来客数は若干増えている。一方、観光客の入込はなかなか増えてこない。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・前月に引き続き、週末は観光客の入込が多い。また、地域や当店のイベントが行われた際には地元客の来店も増えている。売上は前年から13%の増加となった。
	観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・東日本大震災以降、近隣アジアからの観光客は約4割減少している。国内の募集ツアーでカバーしているが、低単価の価格競争に入らざるを得ない状況である。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・先行受注が前年を10%下回って推移している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・11月上旬は暖かい日が続いたが、中旬は初雪が降ったこともあり、少し忙しくなった。ただ、下旬はまた暖かい日が多かったことから、11月全体では前年並みの売上であった。
	パチンコ店（役員）	来客数の動き	・年末が近いせいなのか、来客数が減少している。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・夏から秋にかけて、前年比がほぼ同じような水準で推移しており、3か月前と状況は変わらない。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株安の影響で、住宅に対する客の消費意欲が薄れている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・マンションのモデルルームへの来訪客の様子に変わりはなく、購入に意欲的であるが、より積極的な方向へ動いているわけでもない。人気のある物件では、キャンセルがあるとすぐに他の客が契約するような状況が続いているが、通常の物件についてはマンション販売の商談期間に変化はみられない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月前半は商店街への来街者数が少し盛り返していたが、後半は悪天候の影響で減少した。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月に入り、地元客及び地方からの買物客ともに減少している。商店街の駐車場の空きが多いことに加えて、バス停における乗降客数も前月より顕著に減少している。出控えが顕在化しており、売上を伸ばしている店舗はほとんどみられない。
	一般小売店[土産]（経営者）	来客数の動き	・8月以降、今月半ばまでは観光客も戻ってきており、売上も前年より15%程度増加したが、それ以降の約2週間では、前年比で15%、前々年比で18%も減少した。今年は秋がなく、夏から冬になったような気候であったため、旅行ムードが出なかったことが大きな理由かと思われる。
	一般小売店[酒]（経営者）	販売量の動き	・例年、11月は年末に向けて出費が増えることから、出控えや買い控えのみられる月だが、今年は特に売上の良くない状況にある。最近では家飲みという風潮も出ており、そのことも影響している。

	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・気温が下がり、コート等のアウターの動きは良いものの、来客数の減少に歯止めがかからない。	
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・テレビが売れていない分、全体の売上が伸びない。来客数も伸びていない。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数が減少したため、状況はやや悪かった。団体予約は入ったものの、安い料金であったため、売上にはあまり貢献しなかった。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・11月に入り、来客数が減少している。例年、12月を目前にして客が消費を控える時期だが、今年は特にその傾向が強い。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・11月に入って売上が落ち込んでいる。特に夜間の落ち込みが目立つ。前年11月の売上は3か月前から約12.7%の落ち込みであったが、今年は約16.3%の落ち込みであった。また、前年実績と比較しても、売上は約3.1%の減少となっていることから、景気はやや悪くなっている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・注文数が前年を下回っている。エージェントからの観光客のオーダーも減少している。	
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・全国的には人気通信端末が売れているにもかかわらず、北海道のみ販売が低調である。	
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・3か月前の来客数の前年比は100.2%であったが、11月の前年比は約90%となっている。	
	観光名所（職員）	来客数の動き	・観光シーズンも終わり、国内外の来場者が減少しており、3か月前と比べた来場者は64.4%にとどまった。ただ、香港からの海外客による利用は回復傾向にある。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・前年と比較して天候に恵まれず、フェリーの欠航回数が増加している。それにとともに旅客、車両ともに輸送量が減少している。	
悪くなっている	商店街（代表者）	競争相手の様子	・周辺にある大型店が激安店に業態転換しており、売上が前年の2倍という状況にある。客の所得が減ってきているなか、将来への不安もあるため、どうしてもディスカウント店にせざるを得ない状況がうかがえる。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・今月も競合店の業態変更による新規出店があり、来客数も売上も大幅に落ちている。販売量は前年比87%となっている。	
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・アナログ放送の終了以降、テレビを中心に販売量が激減している。今月が底だと思うが、前年が家電エコポイント特需で最大の需要があったため、その反動が予想以上に大きい。	
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・客の購買意欲が低下しており、受注量、販売量ともに下がっている。	
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・福島第一原子力発電所の事故の影響や九州新幹線の全線開業などにより、北海道への旅行需要が低迷しており、国内客が大幅に減少している。また、過度の円高により、外国人客も大幅な減少となっており、宿泊単価の低下とともに非常に厳しい状況を迎えている。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災後の買い控えが終わり、高額品にも動きが出てきた。
		建設業（従業員）	競争相手の様子	・政治の先行きが不透明なためか、計画を前倒しして、今年度の補助金の交付を受けようとする建築工事が増えている。年度内に着工しなければならないため、そうした建築工事の見積の引き合いが増えている。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・当社で扱っている消耗品の販売額は減少しているが、遅れていた案件が徐々に決まるようになっており、売上は上昇傾向にある。	
変わらない	食料品製造業（団体役員）	それ以外	・原油価格は上昇しているなか、タイの洪水の影響等により水産加工原料等も高騰しており、円高の恩恵が感じられない状況となっている。東日本大震災後の代替受注の増加により、前年実績は上回っているものの、原材料の値上がりで生産コスト高となっており、利益率が大きく低下している。	
	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注について、特に大きく増減するような案件が見当たらない。	

	金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年と比較して、受注量、販売量ともさほど変わらない。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・製紙、医薬品、飼料製品はおおむね順調に推移している。12月からは年末の越冬用飼料製品の製造も開始することになる。また、クリスマス用ケーキなどの生産に向けて、バター、粉乳の出庫が順調であり、倉庫在庫が減少している。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・例年、冬季に向かい取扱量が減少する傾向にあるが、今年は夏場が盛り上がり欠けた分、減少幅が小さい。輸出入貨物も低位安定となっている。
	金融業（企画担当）	それ以外	・観光客は持ち直している。しかし、建設関連は公共工事の予算縮小や住宅エコポイント制度の終了で住宅着工が減少するなど、厳しさが続いている。設備投資は病院の新築や増設がみられるが、先行き不透明感から総じて低迷している。
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引や建物の建築は、基本的に横ばいの状態で推移しているが、一時期と比較すれば上向きの状態にある。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	競争相手の様子	・競合が減少している。ただし、商材そのものが少なく、引き続き厳しい状況にある。
	やや悪くなっている	司法書士	取引先の様子
	悪くなっている	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き
			・土地の売買、建物の新築工事等が少なくなっている。一方で、エコ対策の改築工事や改装工事は横ばいの受注がみられる。
			・受注が確定せず、先送りになる案件や縮小される案件、中止される案件が増えてきた。
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き
		職業安定所（職員）	求人数の動き
		職業安定所（職員）	求人数の動き
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き
		求人情報誌制作会社（編集者）	雇用形態の様子
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き
			・求人数は前年比118%と更にもう一段増加した。景気指標の1つである飲食店の求人は順調に増加しており、来年の繁忙期に向けての不動産業関連の求人も増加している。年末商戦に向けた短期間の求人もコールセンターや運輸系で目立っている。
			・求人数は右肩上がりの傾向が続いている。
			・新規求人数は前年同月比2.5%増加し、21か月連続で前年を上回った。また、月間有効求人数も同11.7%増加し、21か月連続で前年を上回った。
			・当社の求職登録者数は横ばいで推移している。パートやアルバイトの求人は横ばいで推移しているものの、正社員の求人については手控え感がみられる。現在、官庁からの受託事業で失職者に対する就職支援事業を行っており、失職者向けに参加を呼びかけているが、参加者が非常に少なく、求職活動をあきらめているようにも見える。一方、生活給付金付きの職業訓練などには応募が殺到しており、失職者の就業意欲に変化がうかがえる。
			・増員の求人がなく、あくまでも退職による補充のための求人しかみられないため、雇用全体が増えていない状況にある。
			・ここ3か月、求人数に大きな変化はないものの、常用雇用の正社員の求人数が総体的に2～3%の減少傾向となっていることが気がかりである。
			・11月の募集広告売上は、前年比98%と数か月ぶりにマイナスに転じた。業種別にみると、前年に大手宅配業者による大量出稿のあった運輸運送が前年比55%と落ち込みが大きかった。小売流通系も、前年にかかりの売上を占めた特定業者が出稿を見合わせたことから前年比74%となった。このところ落ち込んでいた飲食が前年比166%と大幅増だったことが唯一の救いである。

	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・10月の新規求人数は前年を23.2%上回り、新規求職者数は前年を1.4%上回った。このような状況のなか、月間有効求人倍率は0.59倍となり、前年の0.5倍を0.09ポイント上回った。しかし、依然として新規求人数のうち正社員求人の占める割合が43.5%と低く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから厳しい状況にある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の求人倍率は0.51倍と前月と同数値で前年を0.05ポイント上回ったが、新規求人数が18か月ぶりに前年を下回り、依然として低い水準で推移している。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-